

＼ PICK UP ！

貴重なコンクリート造  
大正初期の床下基礎

大正時代初期に、建築にコンクリートを使った個人住宅は、非常に珍しいといわれています。コンクリート柱による高床式で、柱の直径は約50㎝、高さ約2m。柱中央部は樽にコンクリートを流し込んでいるような形状が見られ、変わった造りにも注目です



写真上) 解体時の基礎 中) N  
UMATA KUMEDAYで展  
示 下) 柱のデッサン

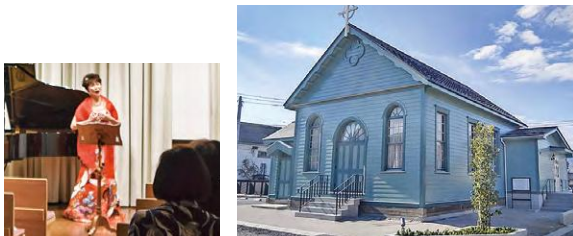


1 2 屋根野地板の調査。白く丸を付けた部分が釘穴で、穴同士の間隔や防水のために敷かれたフェルトの痕跡（黒い線）から、12寸（360mm）長×6寸（180mm）幅の天然スレートの眼違い張りと考えられる 3 曲面の上げ下げ窓（解体前） 4 解体調査で発見された建築当初の白いタイル 5 間仕切りの解体でペアコラム（双柱）を発見 6 曲面の上げ下げ窓に鉄の雨戸が付く（NUMATA KUMEDAYで展示） 7 解体調査などの結果から想定される復原図

大正ロマンエリアを散策しよう

上州沼田武将隊が解説する動画もチェック！

大正の情緒残す コンサートなどで活用  
旧日本基督教団沼田教会記念会堂



大正3年（1914）に生糸貿易を行っていた星野家の星野光多（牧師）・星野あい（津田塾大学長・沼田市名誉市民）らによって建築され、平成10年4月21日に登録有形文化財になりました。大正期の洋風建築で、外壁の下見板、縦長の上下窓、急勾配の屋根などに特徴がよく現れています。

市は平成28年6月に寄贈を受け、解体修理を行い、沼田公園から現在地に移築しました。

景観資源を生かしたライトアップ  
旧土岐家住宅洋館



大正13年（1923）、土岐章子爵が建造。平成2年、市は土岐家より寄贈後、沼田公園へ移築し、おとし6月、上之町に再移築しました。今冬、初めてライトアップしました。



金融史を物語る市内唯一の文化財  
旧沼田貯蓄銀行



明治41年（1908）頃の建造。明治・大正期の擬洋風建造物で、木造2階建寄棟造檜瓦葺き。市内唯一の利根・沼田の金融史を物語る貴重な文化財です。